

日本海から瀬戸内海へのトレール開拓

2686 戸田祐一（芦屋市在住）

関西に居を移してから早5年半となる。当地では地元の「アルペン芦山（ろざん）」という山の会に籍を置いている。昨年はちょうどこの会の創立50周年にあたるので、一昨年から「何か記念になる山行を」との話が出てきた。

そこで計画したのが、日本海から瀬戸内海まで、極力山を歩いて一本のトレールを作ろうというものである。言い出した私が世話役になり、3人の仲間と実行委員会を作って計画立案、実行に当たった。

会のある兵庫県は日本海と太平洋（瀬戸内海）の両方にまたがる本州では数少ない県のひとつであり、北部は日本海性の気候で、冬には数メートルの積雪がある。一方、南部は温暖な瀬戸内の気候で、植生も全く異なり、その中央部を日本分水嶺が通っている。

そこで以下の点を考慮してルートを設定した。
①加藤文太郎の生地の浜坂海岸を出発点②兵庫県の最高峰氷ノ山を通る③日本分水嶺を極力通る④車道は極力避けて藪尾根も辞さない⑤世界遺産の姫路城を通り数少ない自然海岸の姫路の小赤壁を終点とする。具体的に地図上のどこを通るかが最大の課題であった。

また全ルートを9区間に分け、やれるところから実行し、最終的には地図上で一本の線につながるようにした。記念行事なので出来るだけ多くの会員が参加できるように、高齢者や初心者も参加しやすい日帰りの街歩きに近い区間から、避難小屋を使った2泊3日の藪尾根の縦走まで、色々なレベルの区間を設けた。

2015年11月に浜坂から南下を開始、2016年10月に小赤壁に到着。日本海の水を海に注いでトレール完成のセレモニーを行った。

会員数70名強の小さな会で平均年齢は66歳

であるが参加者は実人数38名、延137名。最高齢89歳、最年少48歳、参加者平均年齢は68.8歳。山行回数は12回、18日間だった。歩行時間は登山道30%、道の無い藪50%、林道13%、車道7%と、山を歩いて縦断するトレールという狙いは達成できたと思う。

山行内容は地味な中国山地の山なので紹介するほどのことはないが、氷ノ山から段ガ峰までが中央分水嶺にあたる。北部のブナやネマガリ

タケ、南部の松とシダなど植生は興味深く、独特の味がある。特に目立つ山も無く、シワのような細かな枝尾根が多い藪山で、地図読みの訓練には最適の地形である。私も久しぶりに真剣に地形図を読んだ。参加者の読図力は大いに向上したものと思われる。

今回の兵庫縦断トレールは、会員の半数以上が参加、若手も高齢者もそれなりに自分の力に見合った区間に参加してトレールを完成した。50周年事業としては、大変意味のある成果だと思われ、50周年の祝賀会では大いに盛り上がった。



兵庫縦断トレールの地図



兵庫縦断トレール出発点



兵庫縦断トレール小赤壁到着